

■後世に継承・活用・創造したい「本物」

「人形浄瑠璃」

■「本物」が有する競争力の高いテーマ性

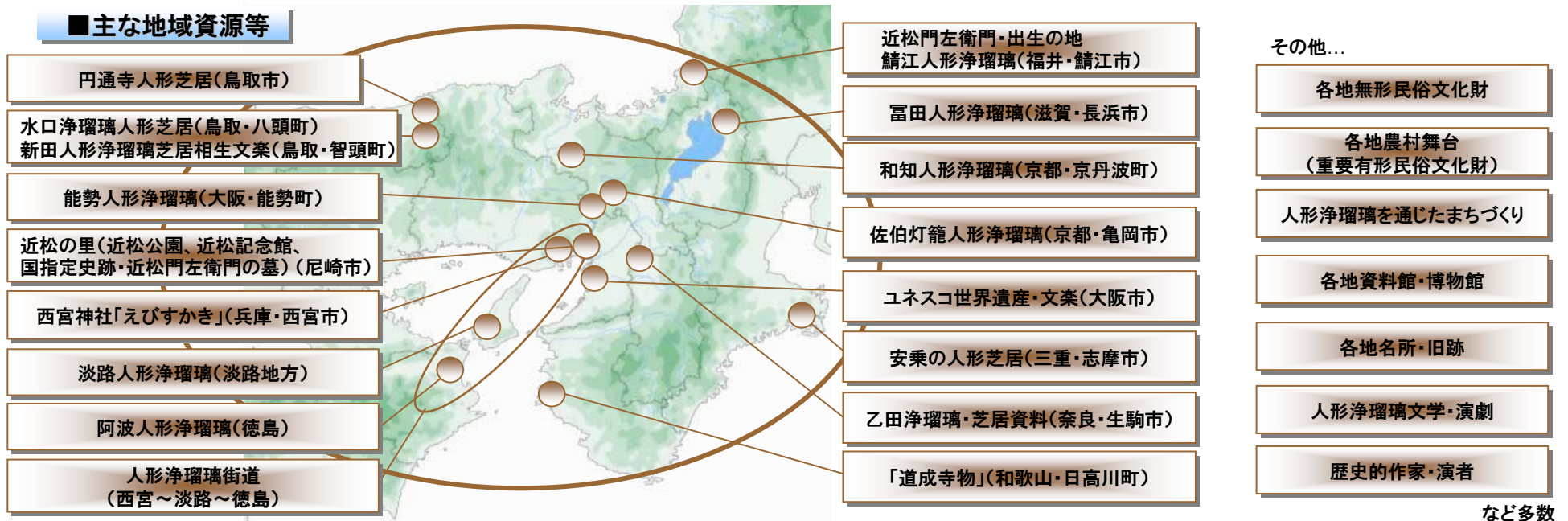
人形浄瑠璃は、西宮神社の「えびすかき」が淡路に人形の操り技術を伝え、発展したものと言われており、**関西発祥の伝統的な芸術文化**である。また、**文楽**は、人形浄瑠璃を洗練・発展させたものであり、**大阪が発祥の地**である。人形浄瑠璃については、**関西圏の民俗芸能**として波及し、多くの地域において現在も息づいている。また、文楽については、大阪・日本橋に日本唯一の**国立文楽劇場**がつくられ、**日本を代表する文化**として多くの人を魅了している。このようななか「人形浄瑠璃文楽」(所属する機関又は団体:人形浄瑠璃文楽座、いわゆる「文楽」)は、その文化的価値が世界的に認められ、**2008年にユネスコ無形文化遺産**に登録されている。**国指定の重要無形民俗文化財**は、「はなやか関西」圏域内には、3つ(淡路人形浄瑠璃(1976年)、安乗の人形芝居(1980年)、阿波人形浄瑠璃(1999年))ある。

人形浄瑠璃・文楽を通じて、日本文化の魅力を国内外に発信することは**関西の使命**と言える。

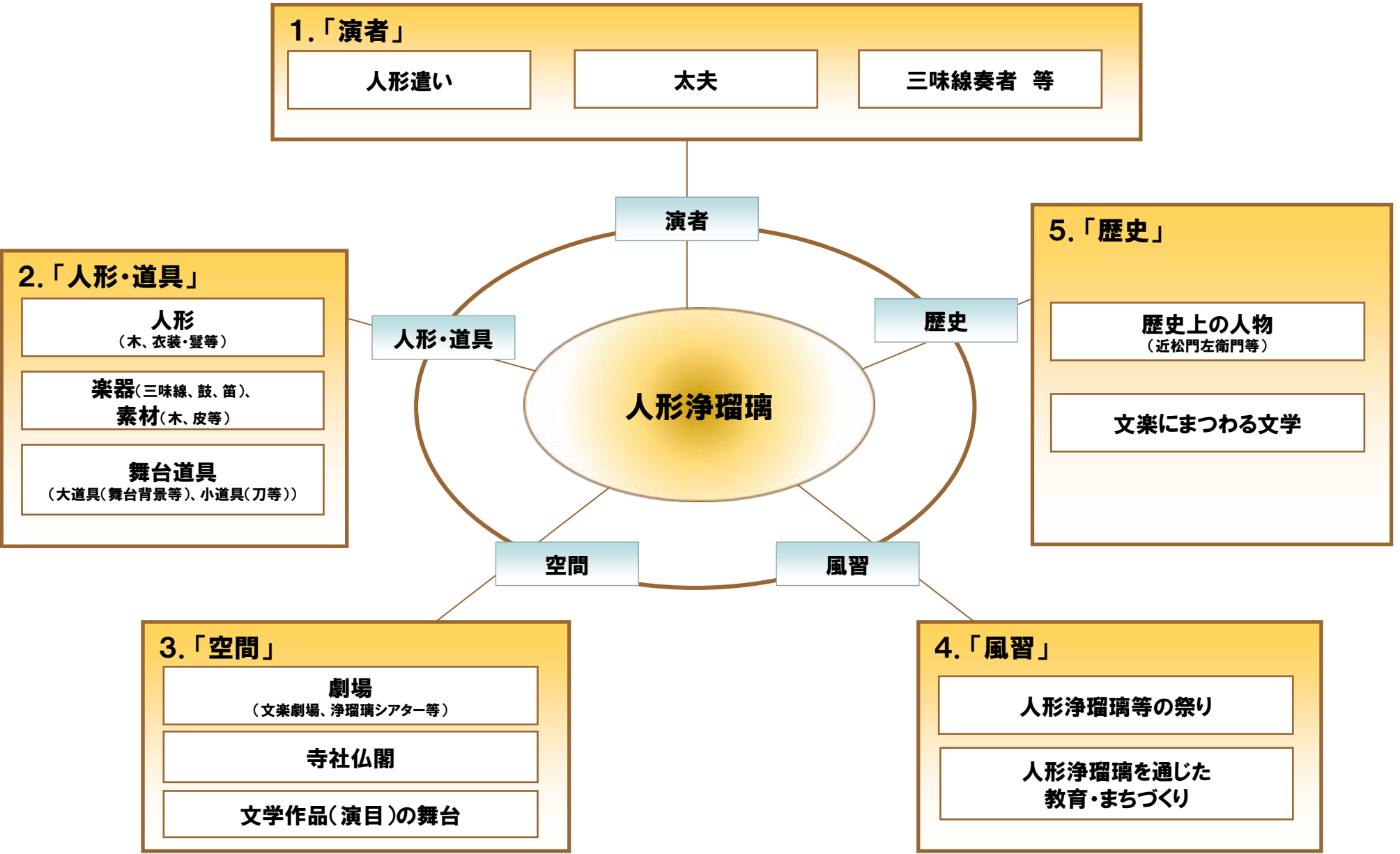
■「本物」を核にした取り組みのストーリー

①人形浄瑠璃にまつわる地域をネットワーク化するなど**人形浄瑠璃**を継承・発展させる取組を進めるとともに、②人形浄瑠璃を**国内外に広く分かりやすく伝える**。また、③**人形浄瑠璃の継承・発展**を通じてまちづくりを進め、④**人形浄瑠璃の観光ルート**を開発する。

■主な地域資源等



「はなやか関西～文化首都年～2012」テーマ(案)「人形浄瑠璃」に関する取組(例)



テーマ候補に関する関西各地の取組等の概要

No.	府県名	所在地 (市町村)	資源	主な活動主体	主な活動拠点(施設)	概要
1	大阪府	大阪市	人形浄瑠璃文楽	財団法人文楽協会 NPO法人人形浄瑠璃文楽座 独立行政法人日本芸術文化振興会	国立文楽劇場	人形浄瑠璃を受け継いだ、日本の伝統的な人形劇。本来、江戸時代後期に人形浄瑠璃を蘇らせた植村文楽軒が創った劇場の名前だったが、芸能そのものをさすようになり、現在では正式名称となっている。文楽座の始まりは、淡路仮屋の初世植村文楽軒が「西の浜の高津新地の席」という小屋を大坂高津橋南詰で建てて、興行したのが始まりとされる。 1955年に(人形浄瑠璃文楽座の座員により演ぜられる)文楽が文化財保護法に基づく重要無形文化財に指定。2009年9月にユネスコ無形文化遺産に登録された。
2		能勢町	能勢人形浄瑠璃	能勢人形浄瑠璃「鹿角座」 伝統文化の黒衣隊	浄るりシアター	人形を用いず語りと三味線だけの能勢の浄瑠璃は、能勢の文化的風土のもとで、農業の傍ら土地固有の芸事として庶民によって創られ、伝えられ地元で親しまれて、江戸時代中期・文化年間(1804年～1817年)に初代太夫が誕生し、今日に至っている。 能勢浄瑠璃は、【おやじ】と呼ばれる制度があり、(いわゆる家元に当たるが、世襲制度ではない。)【おやじ】になる太夫は、弟子を5～6人養成し、後継者の育成を行う。現在でも200名を超える語り手が存在する。永らく伝えられた能勢の浄瑠璃を地域の財産として守り育てていくと共に次の世代に向けての提案と発展のために、新しく人形を加えて1998年にザ・能勢人形浄瑠璃がデビューし、活動している。
3	兵庫県	淡路	淡路人形浄瑠璃	財団法人淡路人形協会 淡路人形芝居サポートクラブ	淡路人形浄瑠璃資料館 淡路人形浄瑠璃館(うずの丘大鳴門橋記念館) 洲本市立淡路文化史料館	淡路島に伝承される人形芝居で、かつては旅興行などで盛んに活躍し、現在も義太夫節による三人遣いの人形芝居としてはすぐれたものの一つとして今日に至っている。演目には、「賤ヶ岳七本槍」「源平八島合戦」など人形浄瑠璃文楽にもない珍しい演目が伝承されている点に特長があるが、この他にも「阿波の鳴門」「玉藻前」など多数の演目がある。また「衣裳山」「四十八段返し」などの特殊な演出法を持っている点など、人形芝居の変遷の過程を知る上に貴重な価値を有している。年間を通じて三原郡三原町や南淡町福良などで公演している。
4		西宮市	えびすかき	人形芝居えびす座 (西宮中央商店街)	戎座人形芝居館	平安時代、西宮神社ゆかりの傀儡師(くぐつし)たちが、全国に小さな人形の入った箱を首から下げて人形を操りながら全国を廻り、えびす信仰を語り、広げた。この傀儡師の演じる人形操りを「夷かき」または「夷まわし」と呼び、安土・桃山時代に西宮の傀儡師の活動は最盛期を迎え、後の三味線と浄瑠璃語りを加えた淡路や徳島の人形浄瑠璃に発展したと言われている。西宮では徐々に廃れていき、明治の終わりに吉田小六を最後に無くなっていったが、西宮神社の門前町である戎参道(西宮中央商店街)において、震災復興とまとづくりの一環として、商店主自らが傀儡師となり、「人形芝居えびす座」として活動を行っている。
5	京都府	亀岡市	佐伯灯笼人形浄瑠璃	稗田野神社 御霊神社 河阿神社 若宮神社	稗田野神社	ひえ田野神社、御霊神社、河阿神社、若宮神社の4社が合同で行う盆行事。国の重要無形民俗文化財に指定されている。 貞観5年(862)京都御所からひえ田野神社に灯ろうが下賜されたのを祝い、五穀豊穡を願う農民のまつりとして始まった。 農作業の様子を表す人形が飾られた5基の灯笼がみこしとともに地域を練り歩き、境内には夜店が数多く立ち並びにぎやかな夏の夜の祭典で、浴衣姿の人達が大量練り出す。「台灯笼」と呼ばれる移動式の小さな舞台では、背丈30cmほどの人形を操る浄瑠璃が演じられる。 8月14日の祭礼(もとは旧暦7月14日・15日)に渡御【ときよ】巡行する神輿に供奉する灯笼の行事であり、役灯笼【やくとうろう】(神灯笼とも)と台灯笼【だいとうろう】の二種の灯笼が出る。役灯笼の製作や世話は、佐伯ほか稗田野町一帯の旧六か村の氏が輪番で担当してきており、台灯笼の世話やそこの人形浄瑠璃の上演は今も佐伯灯笼保存会が執り行っている(以前は台灯笼は財力のある願主がいっさいを世話していた)。
6		京丹波町	和知人形浄瑠璃	和知人形浄瑠璃会	—	江戸時代末期に大迫村で農閑期に楽しんでいたのが始まりといわれている。京都府無形民族文化財に指定されている。一般的に文楽人形は「三人遣い」で操られるが、和知人形浄瑠璃では1人で大型の人形を操る「一人遣い」が特徴。
7	奈良県	生駒市	乙田人形浄瑠璃	なし(資料保存のみ)	萩の台文化財保存館	村の豪商・松川家の幕末から明治にかけての当主・松川伊作氏に端を発する。伊作氏は当時流行りの人形浄瑠璃を自分だけで楽しむことなく、村に娯楽として取り入れようと、村人を集めて「浄瑠璃語り」を習わせ、師匠を雇い自分の家に住ませ、農作業を終えた村人とともに三味線や義太夫節などを練習させた。また歌舞伎役者・中村駒之助を招き、歌舞伎の稽古も行われた。浄瑠璃語りに入形を合わせた人形浄瑠璃が、いつから始まったのかは明確ではないが、明治の早い時期に村芝居一座の「松栄座」が結成され、歌舞伎芝居と人形浄瑠璃が村芝居として演じられるようになった。その活動は本格的で、伊作氏をはじめ村人たちは芸名をもち、春秋2回の公演だけでなく、平群や奈良にも呼ばれて出向き、村芝居を披露したという。舞台の設営が大掛かりな歌舞伎芝居に対して、家の中に簡単な舞台を用意して上演できる人形浄瑠璃は、新築の家の床固めなどのめでたい席や、村内の泉光寺の講の日などでも演じられた。 明治・大正と盛んだった村芝居は、戦争の足音とともに演じられなくなり、人形浄瑠璃は昭和6年の上演が最後となった。また松栄座そのものも昭和10年に活動を休止し、戦時中は慰問公演のみを行うようになった。戦後、村に流れる芝居の伝統は、昭和22年に共栄演劇倶楽部として復活したが、29年を最後に行われなくなり、昭和45年に復興した演劇も63年に幕を閉じた。
8	滋賀県	長浜市	富田人形浄瑠璃	富田人形共遊団	富田人形会館	びわ町の北富田に伝わる富田人形は百数十年の伝統を誇る人形浄瑠璃。天保6(1835)年の昔、四国の阿波から人形一座が巡業に訪れたものの、大雪のために客が集まらず、帰りの路銀の代わりに人形のカシヤや道具一式を置いていき、いつまで待っても一座が引き取りにこないのが、村人が人形芝居の稽古をするようになったのが富田人形の始まりといわれている。 その伝統は今でも守られ、年2回の定期公演のほか、県内外でも公演活動が積極的に行われている。最近では、外国からの留学生との交流も盛んになってきている。

テーマ候補に関する関西各地の取組等の概要

No.	府県名	所在地 (市町村)	資源	主な活動主体	主な活動拠点(施設)	概要
9	福井県	鯖江市	鯖江人形浄瑠璃	鯖江人形浄瑠璃「近松座」	立待公民館	<p>浄瑠璃作家として元禄文化を築いた近松門左衛門が、立待吉江で幼少期を過ごした史実をもとに、地元の人形浄瑠璃劇団を立ち上げたいという関係者の願いが実り、平成17年3月「第8回近松まつり」が「第20回国民文化祭・ふくい2005県民自主企画事業」として開催されるのを機会に座が結成された。発足時は、人形浄瑠璃「たちまち座」という名称だったが、平成18年4月より鯖江人形浄瑠璃「近松座」に変更になった。</p> <p>鯖江市内各地から集まったメンバーが(全く素人ばかりのスタート)長浜市の富田人形共遊団の指導受け厳しい練習と運営スタッフの支援を得て、気持ちを合わせて近松の情(こころ)を感じながら新しい鯖江の文化創造にチャレンジしている。</p> <p>阿波地方に行なわれる人形芝居。徳島市では八月上旬に定期的上演されるが、県内各地での開催は不定期である。</p>
10	徳島県	徳島市	阿波人形浄瑠璃	公益財団法人阿波人形浄瑠璃振興会 (阿波人形浄瑠璃研究会「青年座」ほか)	松茂町人形浄瑠璃資料館 徳島県立阿波十郎兵衛屋敷 阿波木偶資料館(徳島県郷土文化会館内) 徳島市天狗久資料館 阿波木偶館 阿波農村舞台(犬飼、坂州など9ヶ所)	<p>阿波の領主蜂須賀氏が関ヶ原の役以後、淡路をも領したことにより、淡路と阿波の交流が盛んとなり、また歴代の藩主が人形芝居を保護奨励したため、淡路の上村源之丞もたびたび城内に参入してその技を上覧に供し、城下においても興行を催していた。歌舞伎が禁止されていた事情もあり、この人形芝居が次第に普及し、人形遣いになる者を生むとともに、浄瑠璃の太夫や三味線にも名手が輩出し、神社の境内に舞台を設けて町や村の祭礼にはかならずとっていいほど人形芝居が演じられた。このため阿波の人形芝居が盛んになり、かしらを大きくするなどの工夫が加えられ、独自の人形芝居を作り上げるに至った。</p> <p>人形芝居の中でも文楽とは異なった特色がみられ、日本の人形芝居の一つとして価値が高い。</p>
11	三重県	志摩市	安乗の人形芝居	安乗人形芝居保存会	安乗人形芝居舞台(安乗神社境内)	<p>400年以上にわたり伝承されている。安乗神社の祭礼の際に境内の広場に建てられた専用の舞台において、安乗の有志により演じられる三人遣いで上演され、喜怒哀楽の表現が素朴で大胆かつ野趣に富むという特徴を持っている。志摩の国の国主丸鬼嘉隆が文禄の役に参加する際、安乗神社に参拝し戦勝を祈願したところ風向きが変わり船は追風に乘って無事出航する事ができ戦役で武功をたて、再び安乗神社に御礼参りに訪れ人形芝居を許したのが始まりと言われている。当初は礼儀的な三番叟を舞って奉納し漁船や入港する船の海上安全を祈ったものと推測される。</p> <p>農漁業の不況や戦争により約4半世紀近く中絶されたが大阪文楽座の吉田文五郎一座が来訪し神社の舞台で人形芝居を上演奉納したのを機に復活の気運が高まりその後指導・練習を経て技術修得の成果として昭和25年初午の祝いに初めて披露し甦った。</p> <p>演目としては「阿波の鳴門」「御所桜堀川夜討」「太功記」「菅原伝授手習鑑」等がある。毎年大晦日に、神社境内の人形庫の神座に、御簾を垂らし、注連【しめ】を張って祭られている式三番叟人形(翁、千歳、三番叟)を本殿へ移し、一月二日の日の出を浴びて式三番を舞い納める行事がある。千歳を一番叟、翁を二番叟、三番叟をサンパッサンとも呼んでいる。</p>
12	鳥取県	鳥取市	円通寺人形芝居	円通寺人形芝居保存会	円通寺人形芝居伝承館	<p>円通寺人形芝居は、明治年間まで一人遣いで演じられたと考えられ、また、伝承演目の中に祝福の門付芸としても演じられた「大黒舞」の演目を含むなど人形芝居の古様な姿を示し、また、江戸時代にこの地方で流行した歌謡に合わせて人形を操るなど地域的特色を示すものである。</p> <p>現在、人形芝居に伝わる「頭【かしら】」には一人遣いをうかがわせるものがあり、かつてこの地方で行われた門付芸の人形芝居(一人遣いと考えられる。)は、「三吉デコ」と総称されたが、今日でも三人遣いながら「三吉デコ」と呼ばれる演目を伝えており、この演目は古様な一人遣いと関連を示すと考えられる。また、「大黒舞」の演目は、正月や婚礼、新築祝い、大漁祝いなどの際に、それぞれの場所に向向き、御祝儀として行われたものと伝え、いわゆる祝福の門付芸の流れを汲んでいる。</p> <p>「地【じ】」(伴奏)に使われる歌謡は、「クドキ節」、「ガンリキ節」、「ネンリキ節」、「心中節」、「円通寺節」など様々に呼ばれている。一説に、江戸時代に鳥取城を山城から平城にする際に歌われ始めたともいわれ、盆踊り唄などのいわゆる「クドキ」の曲調で、伴奏楽器が三味線のほか、太鼓や胡弓を使うなど特色がある。</p>
13	鳥取県	八頭郡八頭町	水口浄瑠璃人形芝居	因幡文楽水口人形芝居保存会	—	水口人形芝居は、因幡文楽の伝統を受け継いでもので、浄瑠璃で演じる民衆芸能として、鳥取県内でも数少ない貴重な芸能。江戸時代末期から伝えられ、現在保存会によって受け継がれている。
14		八頭郡智頭町	新田人形浄瑠璃芝居相生文楽	NPO法人新田むらづくり運営委員会	新田人形浄瑠璃の館	山郷地区新田で明治7年に始まった人形浄瑠璃芝居は、人間国宝桐竹紋十郎の技が息づく伝統芸能として隆盛を極め、県内外でその名が知られている。人形、写真や資料等は「清流の里 新田」に常設展示されている。
15	その他	その他	乙女文楽	乙女文楽座、光華座 など	—	大正14年、林二輝氏によって考案され、戦前まで人気を博していた。文楽の「三人遣い」に比べ、乙女文楽座の「一人遣い」は「耳紐」で人形の頭を動かし、「腕金」と「手」でからだの動きやしぐさを 遣い手と一体となって表現する。人形を女性がひとりで行うことが大きな特徴。現在、乙女文楽は大衆芸能として存在せずプロの人形遣いは5人もいない状態である。戦時中に多くの人形が焼失してしまったことも日本の伝統文化にとってかなりの損失である。保存も大事であるが新しい作品を製作し、生きた芸能として存在するべく日々活動を続けなければならない状況にあるのが実状である。

テーマ候補に関する関西各地の取組等(主な地域資源等: 演者)

No.	府県	市町村	活動団体	内容
1	大阪府	大阪市	財団法人文楽協会	文楽の保存及び普及を図ることを目的とし、文楽に関する調査研究、文楽三業の伝承者の養成、文楽の公開、文楽の保存及び振興上必要な研究会、講習会等の開催などの事業を実施している。
2		大阪市	NPO法人人形浄瑠璃文楽座	義太夫、三味線、人形の技芸を具体的に指導普及し、人形浄瑠璃の発展をはかり、わが国の文化振興に資することを目的に活動。学校などの教育機関や公共施設における文楽の解説などを中心に、地方の人形座での技術指導、老人ホームへの慰問を通じて、人形浄瑠璃文楽を正しく保存、伝承し、その普及をはかる活動を実施している。現在は文楽技芸員の有志50名により活動している。
3		豊能郡能勢町	能勢人形浄瑠璃「鹿角座」	「能勢の浄瑠璃」を地域の財産として守り育て、次の世代にむけての提案と発展のため、人形・囃子を加えたビジュアル化する一環として平成10年、「ザ・能勢人形浄瑠璃」を結成。太夫・三味線・人形遣い・囃子・こども浄瑠璃(語り・三味線)があり、年間を通して行われるワークショップを受けながら、自主練習、依頼公演と活動している。人形首(かしら)、人形衣裳、舞台衣裳、舞台美術、演目(「能勢三番叟」「名月乗柱木」)はすべて能勢オリジナルで、全国からも注目されている。平成18年、能勢町制施行50周年を機に、名称を「能勢人形浄瑠璃鹿角座(ろっかくざ)」に改め、劇団を旗揚げし、活動している。
4		豊能郡能勢町	伝統文化の黒衣隊	能勢人形浄瑠璃有志と能勢町商工会青年部のメンバーで構成。全国の人形浄瑠璃の芝居をサポートするため、人形浄瑠璃を行ううえで必要な道具の手配・修理、演者や場所の手配等を行っている。
5	兵庫県	西宮市	人形芝居えびす座	「えびすかき」を貴重な地域文化遺産として復興させることを目的に商店主や地域の有志で結成。阪神・淡路大震災で大きな被害を受けた西宮中央商店街を含む地域のまちおこしのシンボルとして設立した成座人形芝居館を主に、「復興中の口上」ほか、子どもや大人も楽しめる「創作えびす舞」、語り「おこしや伝説」などを上演している。
6		南あわじ市	財団法人淡路人形協会	古典芸能人形浄瑠璃芝居の保存及び振興を図ることを目的に、人形遣い、浄瑠璃太夫及び三味線唄の養成、人形浄瑠璃芝居の人形その他道具類の収集及び保存、人形浄瑠璃芝居に関する調査研究及びその成果の公表、人形浄瑠璃芝居の公演、人形座の運営、人形会館の建設及び運営などに取り組んでいる。
7		南あわじ市	淡路人形芝居サポートクラブ	「淡路人形浄瑠璃」の保存・継承の支援に関する事業を行い、淡路人形芝居の振興発展に寄与することを目的に結成。民間有志(法人・団体・個人)による会費・寄付金を結集して、人形芝居の保存・継承に関する諸活動を総合的に支援している。淡路人形芝居後継者団体・関係団体助成、淡路人形芝居の海外公演・国内主要公演の助成などの支援活動のほか、広報紙の作成・配布、ホームページの開設・管理などの事業を展開している。
8	滋賀県	長浜市	富田人形共遊団	滋賀県無形民俗文化財に選択される人形浄瑠璃「富田人形」の保存と技芸の継承、周知することを目的に、自主公演、後継者の育成、小・中学生への鑑賞教室のための公開と体験、国内外での出張公演、海外の学生のためのジャパンシアターの開催、他の人形保存団体との交流などを展開している。メンバーは公務員、会社員、主婦といった地元有志によって構成、会費制の活動で地域ぐるみの活動として着実に成果を上げている。
9	福井県	鯖江市	鯖江人形浄瑠璃「近松座」	近松門左衛門が幼少期を過ごした史実を活かすため、平成17年「第8回近松まつり」が「第20回国民文化祭」として開催されるのを機会に結成される。平成18年、鯖江人形浄瑠璃「近松座」に名称を変更。当初は、鯖江市内各地方から集まった全く素人ばかりのメンバーでスタートし、長浜市富田人形共遊団の指導を得て、公演活動を行っている。海外の大学の授業の入り込み、日本文化を間近で見せ、触れさせるといふ、公演以外にも文化の国際交流も行う。
10	徳島県	徳島市	公益財団法人阿波人形浄瑠璃振興会	阿波人形浄瑠璃の技法を継承し保存すると共に、これに付随する技術の向上を振興保護し、あわせて伝統芸能の阿波人形浄瑠璃が阿波文化の中心的使命を十分発揮できるよう計画された一切の事業を行っている。振興会には人形座14団体(阿波十郎兵衛座、阿波人形浄瑠璃研究会「青年座」など)などが所属しており、阿波十郎兵衛座では阿波十郎兵衛座が定期公演を行っている。

No.	三業	主な演者(人間国宝)	内容
1	太夫	竹本住大夫(七世)	本名・岸本欣一。大正13年、大阪に生まれる。昭和21年、二世豊竹古朝大夫に入門。昭和35年、九世竹本文字大夫を襲名し、56年より切(霧)語りとなる。昭和60年に七世竹本住大夫を襲名。平成元年、国の重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定され、平成17年文化功労者として顕彰される。
2	太夫	竹本綱大夫(九世)	本名・尾崎忠男。昭和7年大阪に生まれる。昭和21年四世織大夫に入門。昭和38年五世竹本綱大夫を襲名し、平成6年より切(霧)語りとなる。同年、紫綬褒章を受章。平成8年に九世綱大夫9代目を襲名。平成19年、国の重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定される。
3	三味線	鶴澤寛治(七世)	本名・白井康夫。昭和3年、京都に生まれる。6歳で地歌と琴、13歳で太棹の手ほどきを受ける。昭和18年、三世鶴澤寛治郎に入門。昭和31年に八世團六を襲名。平成6年より三味線格となり、平成9年、国の重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定される。
4	三味線	鶴澤清治	本名・中能島浩。昭和20年大阪に生まれる。昭和28年、四世鶴澤清六に入門。昭和51年に四世竹本越路大夫を弾き、以後、平成元年の越路大夫引退までの13年間、その三味線を弾いた。平成19年、国の重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定される。
5	人形遣い	吉田文雀	本名・塚本和男。昭和3年、東京に生まれる。昭和20年、二世吉田玉市の預かりとして文楽座に入座。昭和25年、三世吉田文五郎の門下となり、文雀と改名。平成6年、国の重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定される。
6	人形遣い	吉田襄助(三世)	本名・平尾勝義。昭和8年、大阪に生まれる。昭和15年、三世吉田文五郎に入門。昭和36年、三世吉田襄助を襲名。平成6年、国の重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定される。

テーマ候補に関する関西各地の取組等(主な地域資源等:人形・道具)

No.	資源	国の文化財指定等	府県名	概要
1	人形浄瑠璃文楽	ユネスコ無形文化遺産 重要無形文化財	—	人形浄瑠璃は、浄瑠璃(太夫)・三味線・人形の三業が一つになって、呼吸のぴったり合うとき、すなわち三位一体となると、はじめてそこに高い芸術が生まれる。もとより、人形浄瑠璃はその発生時から今日の形態であったわけではないが、芸術として最も完成され洗練されたその伝統は、今日の人形浄瑠璃文楽座の文楽に継承されている。文楽は、寛政末年淡路の人、植村文楽軒によって、いわゆる「文楽の芝居」として、従前の人形浄瑠璃が引き継がれたものだが、人形浄瑠璃はそれ以前に竹本義太夫・近松門左衛門などの手によって、ほぼ今日の形態を整えていた。しかし、明治から、昭和三十年代にかけて、文楽は幾多の消長を経たが、人形浄瑠璃としての芸能伝統はよく守り、今日にその正しい芸系を伝えている。また、文楽は一体の人形を三人で遣う特殊な演技演出法をもち、精巧繊細なこの技法は、文楽をしてわが国の代表的伝統芸能の一つとしている。
2	人形浄瑠璃文楽人形	重要無形文化財	—	わが国の人形浄瑠璃はその歴史においても芸術においても独特のものがあり、その最も洗練され完成されたものが人形浄瑠璃文楽である。その発生は慶長以前にさかのぼるが演劇的な形態をほぼ整えたのは寛永の頃で、その後洗練を重ね、今日にいたっている。浄瑠璃、三味線が物語の進行、起伏、登場者の心理の葛藤を描くのに対し、人形はそれらを視覚化するものであり、浄瑠璃、三味線、人形の三位一体の構成により演ぜられる総合芸術である。人形浄瑠璃文楽の人形は、一つの人形を主【おも】遣い、左遣い、足遣いの三人で遣うという世界の人形芝居にその比を見ない繊細巧緻なもので、高度の芸術的価値をもつとともに、その演技・演出の様式等わが国演劇史上に遺した足跡は大きく、芸能史的にも高度な価値がある。
3	人形浄瑠璃文楽三味線	重要無形文化財	—	人形浄瑠璃文楽は、太夫・三味線・人形の三者が一体となった時に作り出される舞台芸術である。太夫が声の抑揚緩急でさまざまな性格、気分、情景を言葉で表現するのに対して、三味線は、絃の音色と抑揚緩急でその気分を描出し、人形は、太夫・三味線の浄瑠璃に乗って劇を展開させる。太夫と三味線は、常に表裏一体、不即不離の関係にあるが、とくに三味線は、人形の足遣い、手順を示すとともに、太夫の語りを導くという役割を受け持ち、その舞台の進行をリードする。このように三味線は、人形浄瑠璃文楽にとって欠くことのできない重要な役割を果たすものである。
4	人形浄瑠璃文楽太夫	重要無形文化財	—	人形浄瑠璃文楽は、江戸時代に完成された人形による一種の楽劇であり、太夫は、三味線、人形とともに人形浄瑠璃文楽の成立、構成上、重要な要素をなし、わが国の芸能史上または芸術上高度な価値を有するものである。
5	文楽人形髪・床山	選定保存技術	—	文楽人形髪・床山は、人形浄瑠璃文楽の首【かしら】(人形)に、それぞれ役柄に合った髪を作って取り付け、髪を結い上げる技術である。文楽人形の髪は、大部分が前髪【びん】、髷【つと】、髷【まげ】の各部ごとに作られた部分髪を組み合わせて作る。髪を取り付けた後に髪を結い上げる。基本的な髪型は、約120種類で、各役柄の身分や年齢、人形遣いの好みなどに合わせて結い上げ、挿などの髪飾りや頭巾なども取り揃えて完成する。
6	阿波人形浄瑠璃	国重要無形民俗文化財	徳島県	阿波人形浄瑠璃は、徳島県の各地に伝承されている義太夫節による三人遣いの人形芝居であり、かつては各地の農村舞台で地元神社の祭礼などの機会に上演されてきた。阿波人形浄瑠璃の絶頂期は明治中ごろといわれ、著名な人形師である初代天狗屋久吉の明治二十年ごろの注文帳によれば、当時県内に70以上の人形座が活動していたことが記録されている。阿波人形浄瑠璃の特徴としては、第一に人形の首【かしら】の大型化があげられる。人形浄瑠璃文楽の首が四寸型を基本とするのに対し、阿波人形浄瑠璃では六寸型が基本となっているが、これは明治初年から中ごろにかけて、農村舞台での効果などを考えて天狗屋久吉をはじめとする人形師たちにより加えられた工夫であると思われる。さらにこの首の使用が広まるにつれ、それを生かした大振りな人形操作による独自の演出法も生まれ、西日本における地方の代表的な人形浄瑠璃として、四国・九州の他地域の人形浄瑠璃にも大きな影響を与えた。以上のように阿波人形浄瑠璃は、首の大型化など地方独自の工夫で展開した人形浄瑠璃であり、わが国の芸能の変遷の過程を示すものとして特に重要である。
7	阿波人形師(天狗屋)の製作用具及び製品 附 販売関係資料	重要有形民俗文化財	徳島県	徳島市国府町和田で天狗屋の看板を掲げ、明治・大正・昭和の三時代にわたり人形師として活躍した、吉岡久吉・吉・治の天狗久三代が使用した人形の製作用具及び製品と看板や注文帳、控帳などの販売関係資料。全国各地の民俗芸能系の人形芝居に大きな影響を与えた阿波人形の製作・修理技術の実態と、木偶だけでなく様々な細工品を製作した阿波人形師の営業の実態を示している。
8	阿波の襖カラクリの習俗	記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財	徳島県	この習俗は、人形芝居の舞台などの奥に設けられた高座に組み込んだ襖を巧みに操作して、舞台背景を瞬時に転換する演出をめぐる習俗である。類似の技法は各地の農村舞台にもみられるが、阿波では襖カラクリが独立した演目としても行われ、この地方の舞台設備や機構に大きな影響を与えてきた。
9	犬飼の舞台	重要有形民俗文化財	徳島県	犬飼の舞台は、五王神社境内にある明治初期建築の人形舞台である。襖カラクリを行うカラクリ場、御殿奥の大広間の風景を見せる奥千畳場などの機構が設置されているほか、人形舞台特有の舟底舞台の形式を残す。現存する人形舞台が多い徳島県のなかでも、舟底楽屋の構造をもち、人形舞台の原形に近い状態で残されている数少ない舞台の一つである。
10	坂州の舞台	重要有形民俗文化財	徳島県	坂州の舞台は、八幡神社境内に建つ人形舞台である。寛政3年(1791)に建設された炊殿を転化したといわれる。平舞台形式で、舞台と客席の双方が見える太夫座のほか、天井から吊るした滑車を利用したカラクリなどの機構がある。現存する人形舞台の多い徳島県内において、典型的な人形舞台の一つといえる。
11	淡路人形浄瑠璃	重要無形民俗文化財	兵庫県	淡路島に伝承される人形芝居で、かつては旅行興行などで盛んに活躍し、現在も義太夫節による三人遣いの人形芝居としてはすぐれたものの一つとして今日に至っている。演目には、「賤分七本槍」「源平八島合戦」など人形浄瑠璃文楽にもない珍しい演目が伝承されている点に特長があるが、これ以外にも「阿波の鳴門」「玉葉前」など多数の演目がある。また「衣裳山」「四十八段返し」などの特殊な演出法を持っている点など、人形芝居の変遷の過程を知る上に貴重な価値を有している。
12	佐伯灯笼	重要無形民俗文化財	京都府	佐伯灯笼は、祭礼行列に加わる台灯笼と呼ばれる移動式の舞台で、三味線音楽の一つである義太夫節にあわせて演じる人形浄瑠璃である。人形は全体が約35センチメートルの大きさで、一体の人形を一人で操る。人形の背後から差し込んだ竹板などによる操作方法や舞台に特色がある。台灯笼は、正面の幅約170センチメートル、奥行約150センチメートル、高さ約80センチメートルの大きさで、その上部に「御殿」と呼ばれる家屋の模型がのっている。人形浄瑠璃は、操作者が台灯笼の中にはいり、「御殿」を後方にずらし、手前側にできた空間に人形を差し上げて演じる。一体の人形を一人が操作するもので、人形背面に竹板を差し込み、操作者は左手で竹板を持って人形の頭部と左手を、右手で人形の右手につなぐ竹棒を持って操る。佐伯灯笼は、移動式の舞台で、特有の操作方法によって人形浄瑠璃を演じるもので、その操作方法や上演舞台の構造など、芸能の変遷過程や地域的特色を示し重要である。

テーマ候補に関する関西各地の取組等(主な地域資源等:空間)

No.	府県	市町村	種類	施設/舞台	所有団体(管理団体)/演目	概要
1	大阪府	大阪市	劇場資料館	国立文楽劇場	独立行政法人日本芸術文化振興会	4番目の国立劇場として1984年に開館。大小二つの劇場と展示室などとなり、大ホールでは世界無形文化遺産に指定されている人形浄瑠璃・文楽の公演を中心に演劇や舞踊などが行われる。小ホールでは奇数月に落語・漫才・浪曲などの興行「上方演芸特選会」が開かれ、東京の国立劇場における国立演芸場の役割も担っている。
2		能勢町	劇場資料館	浄るりシアター	能勢町	「能勢の浄瑠璃」をはじめとする能勢町の文化振興の拠点として平成5年に開館。人形浄瑠璃ワークショップの開催や「能勢浄るり月間」と題し、毎年6月に「能勢人形浄瑠璃鹿角座」による浄瑠璃の公演を行っている。他にも、能勢町郷土芸能保存会による、「人形浄瑠璃ジョイント公演(能勢町の素浄瑠璃+徳島県勝浦座の人形とコラボレーション)」なども開催。浄るりシアターロービーには、能勢の浄瑠璃をはじめ、能勢の人形浄瑠璃の情報を展示している。実際の舞台公演で使用する浄瑠璃の道具や、人形制作の過程なども展示するほか、能勢浄るり月間時の公演のビデオをロービーで上映している。
3	兵庫県	西宮市	寺社仏閣	西宮神社	西宮神社	室町時代の七福神信仰によって「えびす様」が福の神の代表となり、西宮神社がその総本社として、人形織りや謡曲、狂言などの芸能をとおして、全国津々浦々にまで伝わっていったと言われている。1月9日から11日までの3日間は「十日えびす」として名高く、全国から百万人を越す参拝者で賑わっている。
4		西宮市	劇場	戎座人形芝居館	西宮中央商店街振興組合	西宮神社の門前町にある戎座道(西宮中央商店街)にある人形劇の常設小屋。阪神大震災で店舗数が激減した西宮中央商店街振興組合のにぎわいを取り戻すため、商店主らがアイデアを出し合って2005年に「くぐつ再興ぶらりせくと」を立ち上げ、2006年夏には商店街のメンバーが「えびす座」を結成。阪神間の人形劇グループと連絡を取り合い、イベントの毎に市の青空ステージや商店街事務所のスペースで人形劇を上演。また「えびす座」もえびす座をつづき、主人公にた人形芝居「えびす舞」を演じてきた。常設の芝居小屋を作りたという願いが強まり、県の助成金を受けて、商店街の空き店舗を町屋風に改装、2008年5月に完成。同年6月14日に開館。日本の伝統芸能に親しめる居場所づくりを進めている。1階にはどん帳つき舞台と観覧スペースで約50人の観客を収容でき、2階には人形芝居の歴史を紹介する展示スペースが設けられている。人形劇を上演するほか、伝統芸能の発表の場や、人形劇団の公開練習、地域の民話を語り起こす勉強会なども実施。
5		南あわじ市	資料館	淡路人形浄瑠璃資料館	南あわじ市	淡路人形浄瑠璃の地として、多くの人に知られてきたため、市村六之丞座(いちむらろくじようざ)の一式全てをゆずり受けで展示している。淡路人形は衣裳(着物の美しいことも有名。中でも市村六之丞座(いちむらろくじようざ)は立派な衣裳が多く、芝居の途中、舞台上で「衣裳山」といって人形の衣裳を飾って見せている。
6		南あわじ市	劇場資料館	淡路人形浄瑠璃館(うすの丘大鳴門橋記念館)	南あわじ市(財団法人淡路人形協会)	淡路人形浄瑠璃館は、500年の歴史を持つ、淡路人形芝居を上演している。開演前に「人形教室」も実施しており、人形のしくみや、特別な「かしら」などの紹介があり、より淡路人形を楽しむことができる。
7		洲本市	劇場	洲本市立淡路文化史料館	洲本市	大展示室において、国の重要無形民俗文化財の指定を受けている淡路島の代表的な民俗芸能である淡路人形浄瑠璃の人形の頭や、太夫が使う見台・三味線などを復元舞台とともに展示している。
8	滋賀県	長浜市	劇場資料館	富田人形会館	長浜市(北富田自治会)	富田人形の保存振興や文化諸活動の推進を図り、地域文化の向上と住民相互の交流に寄与するため、平成3年に設置。人形浄瑠璃の舞台があり、人形や芝居道具も保管されている。
10	徳島県	徳島市	劇場資料館	徳島県立阿波十部兵衛屋敷	徳島県(財団法人徳島県文化振興財団)	人形浄瑠璃「傾城阿波の鳴門」に登場する「阿波の十部兵衛」のモデルとなった、坂東十部兵衛の屋敷跡。肥後米客船の責任を負われて処刑された十部兵衛の悲話は今に伝わっている。館内には、農村舞台を模した舞台と観覧席があり、阿波人形浄瑠璃を毎日上演している。また木偶人形や人形浄瑠璃の衣裳を展示しているほか、人形の動き方や太夫、三味線など演者の役割についても学ぶことができる。
11			資料館劇場	阿波木偶資料館(徳島県郷土文化会館内)	徳島県(財団法人徳島県文化振興財団)	徳島県における民俗芸能の振興と保存を図り、伝統芸能を永久に伝えるための公開施設。あわぎんホール(徳島県郷土文化会館)が収蔵する数々の民俗文化財のうち、人形浄瑠璃に使用される「阿波木偶」を中心に木偶頭約150点・衣裳類や小道具を合わせて約580点を保有しており、常時展示を行っている。
12			資料館	徳島市天狗久資料館	徳島市	明治から昭和にかけて、阿波人形浄瑠璃の隆盛を支えた人形師・天狗久こと天狗屋久吉の工房を復元し公開した資料館。館内には国の重要有形民俗文化財に指定された人形制作用具や木偶頭、面などが展示されており、天狗久の記録映画「阿波の木偶」も上映され、阿波木偶の真髄に迫ることができる。
13			資料館	阿波木偶館	徳島市	木偶人形に関する施設。明治から昭和にかけて、阿波人形浄瑠璃の隆盛を支えた人形師・天狗久の流れを受け継ぐ人形師、田村恒夫の自宅兼工房。昭和63年にオープン。こふ街角博物館に指定されている。
14			劇場	犬飼農村舞台(五王神社境内)	徳島市	五王神社境内にある明治初期建築の人形舞台。明治初期の建築で、上手側面に斜めに次夫座を付け、背面には奥千畳場と呼ばれる別棟を組み込んでいる。横カラクリを行うカラクリ場、御殿奥の大広間の風景を見せる奥千畳場などの機構が設置されているほか、人形舞台特有の舟底舞台の形式を残す。現存する人形舞台が多い徳島県の中でも、舟底楽屋の構造をもち、人形舞台の原形に近い状態で残されている数少ない舞台の一つである。全国的にも遺存例が少ないばかりか、構造面などに地域的な特徴を有する貴重な建造物である。国指定重要有形民俗文化財。
9	徳島県	板野郡松茂町	資料館	松茂町人形浄瑠璃資料館	松茂町	吉野川河川の三角洲に位置する松茂町にある資料館として平成5年にオープン。「水とたたかう松茂の人々」をテーマに、旧吉野川にも生きてきた松茂町の歴史・民俗とともに、阿波の民衆がこよなく愛した人形浄瑠璃芝居に関する展示を行っている。特に、人形浄瑠璃芝居資料館では、古文書・衣裳・頭・人形などを展示解説しており、天狗久による木偶人形や頭なども保存されている。
15		劇場	坂州農村舞台(坂州八幡神社境内)	那賀町	坂州の舞台は、八幡神社境内に建つ人形舞台である。寛政3年(1791)に建設された炊殿を転化したといわれる。平舞台形式で、舞台と客席の双方が見える太夫座のほか、天井から吊るした浄瑠璃を利用したカラクリなどの機構がある。現存する人形舞台の多い徳島県内において、典型的な人形舞台の一つといえる。国指定重要有形民俗文化財。	
16		劇場	川俣農村舞台(機神社境内)	川俣農村舞台保存会	明治29年、操人形の舞台装置に作られたもので、拝殿、お堂、農村舞台が配置されている。舞台には太夫座や千畳敷の装置やふすま絵も残っており大変貴重であり、なかでも、舞台とふすま絵は、町指定有形文化財に指定されている。	
17		劇場	拝宮農村舞台(白人神社境内)	拝宮谷農村舞台保存会	清流と巨木に囲まれた白人神社の境内にある。昭和22、3年頃まで天狗久や人形などの人形劇40数個を有する「拝宮人形座」が興行していた。平成16年に50年ぶりに復活公演が行われた。	
21		劇場	鎌瀬農村舞台(山神社境内)	相生森林美術館	舞台は社殿に向かって右側にあり、3連の節帳と太夫座を備えている。建て替え前の舞台の梁(はり)は江戸時代の古い材木を使った明治時代の建物だった。舞台は老朽化のため取り壊され、平成3年3月に節帳と太夫座を備えた以前の形そのままに、規模を一回り大きくして建て替えた。	
22		劇場	北川農村舞台(北川八幡神社境内)	那賀町	高知県との県境に位置する那賀町木頭にある農村舞台。徳島市内より車で2時間半の距離にある山奥の舞台でありながら、江戸時代後期に行われた淡路の人形座による公演記録が舞台の壁に書き込まれている。	
18		三好郡東みよし町	劇場	法市農村舞台	法市農村舞台保存会	大きな木材を惜しげもなく(使用し、大棟に龍を飾りつけた入母屋造の瓦屋根を持つなど、当時の村人たちの農村舞台への思いが伝わってくる建物。通常は拝殿として使われているが、全国的に珍しい「仮設式舟底舞台」の仕組みを持ち、取り外し可能なバネ状の床板を床下に落とし込むことで、平舞台から人形浄瑠璃用の舟底舞台に転換する。
19		神山町	劇場	小野さくら野舞台(小野天王神社境内)	小野さくら野舞台保存会	「千畳敷」竹に虎「竜と雷」「松に鶴、朝日」など興味深い図柄のふすま絵が木箱に納められ、多数保存されている。天井にはカラクリ機構もあり、田楽返しなどのふすまカラクリが行われていた様子がうかがえる。
20	勝浦郡勝浦町	劇場	今山農村舞台(今宮神社境内)	今山農村舞台保存会	平成18年、約70年ぶりに人形浄瑠璃を上演していた当時の形に復元された舞台。全国的にもめずらしい「仮設式舟底舞台」がある。平常時は幅4間、奥行き3間の平舞台であり、人形浄瑠璃の時は床に段差を設けて舟底舞台に転換できる。杉の床板、大引き等の部材を撤去し、平舞台から舟底舞台に転換する。	
23	福井県	鯖江市	資料館劇場	近松の里めぐり情報館(立待公民館)	鯖江市	近松門左衛門の誕生から浄瑠璃作家として活躍するまでを、映像とパネルを使ってデジタル風に紹介。また、近松の里をめぐるためのさまざまな情報を得ることができ、公民館の開館中は自由に利用することができる。鯖江人形浄瑠璃「近松座」の活動拠点。
			資料館	鯖江市まなべの館内(近松の部屋、図書コーナー)	鯖江市	近松門左衛門と鯖江市との関係を中心に、史料や映像を交え、近松の業績を紹介するコーナーが設けられている。近松の本人にあたる杉森家より寄託された杉森家系譜や、浄瑠璃人形の展示等の他に、近松の鯖江時代を制作した「近松ものがたり」も上映されている。近松関連の書籍を集めたコーナーもある。
24	鳥取県	八頭郡智頭町(新田地区)	劇場資料館	新田人形浄瑠璃の館	NPO法人新田むらづり運営委員会	平成7年に、新田地区の伝統芸能である人形浄瑠璃を次の世代へ伝承して行くことも目的に開館。人形浄瑠璃の鑑賞と体験のできる施設で、隣接した施設で居座することもできる。和室部分の二間をつなげると、人形浄瑠璃を演じることが出来るようになっていく。また、村のコミュニケーションセンターとしても利用されていて、「秋の村祭り」や各種イベントや村の住民の結婚式なども行われる。
25		鳥取市	劇場資料館	円通寺人形芝居伝承館	鳥取市	無形民俗文化財円通寺人形芝居の保存、伝承等の場を提供するため、平成3年に開設。円通寺人形芝居の練習や、研修等円通寺人形芝居の公開などが行われている。

テーマ候補に関する関西各地の取組等(主な地域資源等:空間)

No.	府県	市町村	種類	施設/舞台	所有団体(管理団体)/演目	概要
1	大阪府	大阪市 北区 曾根崎	演目 寺社仏閣	露天神社(お初天神)	曾根崎心中	元禄16年(1703年)に当神社の境内で実際にあった心中事件を題材に、「曾根崎心中」が書かれたが、そのヒロインの名前「お初」にちなんで「お初天神」と呼ばれるようになった。今日でも恋の成就を願う多くの人々が訪れている。昭和47年7月、曾根崎中1丁目の有志によって、恋に殉じた二人を慰霊するための「曾根崎心中 お初 徳兵衛 仲かりの地」という石碑が建立され、平成16年4月には地元の商店街などから寄付金が寄せられ、徳兵衛、お初のプロンズ像が製作された。
2		大阪市 中央区 心斎橋	演目 寺社仏閣	三津寺		真言宗御室派の準別格本山。大福院三津寺、ミナミの観音さんともいう。『曾根崎心中』の台詞に『悟らぬ身さえ大覚寺さて金台寺大連寺廻り。廻りて是ぞはや、三十番に。三津寺の大慈大悲の頼みにて。かくる仏の御手の糸。白壁町とよ黒髪は恋に乱るる妾の。夢をさまさん博労の。』とある。
3		藤井寺市	演目 寺社仏閣	道明寺	菅原伝授手習鑑	真言宗御室派の尼寺。山号は蓮土山。901年(延喜元年)、大宰府に左遷される道真がこの寺にいた叔母の覚寿尼を訪ね「嗚けはこそ別れも要けれ鶯の音のなからん里の暁もかな」と詠み、別れを惜しんだと伝えられる。この故事は、後に人形浄瑠璃・歌舞伎の『菅原伝授手習鑑』『道明寺』の場にも描かれている。
4	京都府	京都市 伏見区	演目 寺社仏閣	伏見稲荷大社	義経千本桜	稲荷神を祀る日本全国約4万社の稲荷神社の総本宮とされる。稲荷山の麓に本殿があり、稲荷山全体を神域とする。堀川御所を落ち延びた義経一行が静御前と別れる「伏見稲荷の段」の舞台。
5		京都市 東山区	演目	祇園	仮名手本忠臣蔵	仇討ちを忘れてしまったかのように祇園で放蕩に明け暮れる由良助の姿を描いた「祇園一力茶屋の段」で有名。
6	和歌山県	日高郡 日高川町	演目 寺社仏閣	道成寺	道成寺	天台宗の寺院。新西国三十三箇所観音霊場の第五番札所。能、歌舞伎、浄瑠璃の演目として名高い。「安珍・清姫伝説」で知られる。能の『道成寺』を元にして歌舞伎の『娘道成寺』や浄瑠璃の『道成寺』、琉球組踊の『執心鐘入』などが作られた。
7	奈良県	橿原市 新口町	演目 寺社仏閣	善福寺	冥途の飛脚	浄土真宗の寺院。新口町は「冥途の飛脚・新ノ口村の段」で梅川と共に忠兵衛の逃亡してきた、忠兵衛の生家があった町であり、善福寺には、封印切の罪により処刑された忠兵衛の碑がある。「奈良の旅籠屋三輪の茶屋、五日、三日、夜を明け、二十日あまりに、四十両、使い果して二分(一両の半分)残る。鐘も震むや初瀬山・余所に見捨ての親里の、新口村に着きにけるが」という名文句がある。
8		高市郡 高取町	演目 寺社仏閣	壺坂寺	壺坂霊験記	正式名は南法華寺(みなみほっけじ)。真言宗豊山派の寺院。西国三十三箇所第六番札所。本尊十一面観音は眼病に霊験があるといわれ、お里・沢市の夫婦愛をうたった人形浄瑠璃『壺坂霊験記』の舞台としても有名。
9	奈良県	吉野郡 吉野町	演目	吉野山	義経千本桜	吉野川(紀の川)南岸から大峰山脈へと南北に続く約8キロメートルに及ぶ尾根続きの山稜の総称、または金峯山寺を中心とした社寺が点在する地域の広域地名。古くから花の名所として知られ、特に桜は有名で、その地域ごとに下千本(しもせんぼん)、中千本(なかせんぼん)、上千本(かみせんぼん)、奥千本(おくせんぼん)と呼ばれる。平成16年(2004年)7月には吉野山・高野山から熊野にかけての霊場と参詣道が「紀伊山地の霊場と参詣道」としてユネスコの世界遺産に登録された。『義経千本桜』の所作事『道行初音旅』(みちゆき はつねの たび)は、単独で上演する際には「吉野山」と通称する。

テーマ候補に関する関西各地の取組等(主な地域資源等:風習)

No.	府県名	所在地(市町村)	種別	事業(まちづくり、祭りなど)	主な活動主体	主な活動拠点(施設)
1	兵庫県 徳島県	西宮～淡路～徳島	まちづくり	人形浄瑠璃街道 (人形浄瑠璃街道連絡協議会)	【兵庫県西宮】 戎座人形芝居館、西宮市総合企画局文化まちづくり部、 兵庫県阪神南県民局 【兵庫県淡路】 淡路人形浄瑠璃館、NPO法人淡路人形芝居サポートクラブ、 南あわじ市教育委員会、兵庫県淡路県民局、兵庫県立淡路文化会館 【京都府】 和知人形浄瑠璃会、京丹波町教育委員会、京都府文化環境部文化芸術室 【徳島県】 公益財団法人阿波人形浄瑠璃振興会、阿波木偶作家協会、 NPO法人阿波農村舞台の会、徳島県民環境部文化スポーツ立県局、財団法人徳島県文化振興財団	日本三大古典芸能の一つである「人形浄瑠璃」が、西宮～淡路～徳島へと伝承・発展し、関西から全国に広がった歴史的路線「人形浄瑠璃街道」と位置づけ、各地の人形浄瑠璃関係者のネットワークを形成し、相互の情報交換を行い、交流・連携を深めることにより、それぞれの個性を磨くとともに、府県域を越えた魅力溢れる文化資源の掘り起こしや観光資源としてのPR活動等を展開し、関西から人形浄瑠璃の魅力を広く発信していくことを目的として、平成23年10月12日に「人形浄瑠璃街道連絡協議会」を設立。平成24年度に「阿波人形浄瑠璃芝居フェスティバル」「淡路島民俗芸能フェスティバル」などの取組を展開していく予定。
2	大阪府	豊能郡 能勢町	まちづくり	能勢 浄瑠璃の里	能勢町	「浄るりシアター」を中心に、人形浄瑠璃ワークショップ(参加体験型の学習・創造活動)や地域の芸術文化団体の育成、加えて発信・交流を目的としたシンポジウムや人形浄瑠璃の外部公演等を通じて「浄瑠璃の里文化」を全国に発信。地域住民が一体となり地域活力を向上させ、地域の活性化を実現する取組を展開している。
3	兵庫県	尼崎市	まちづくり	近松ナウ事業	尼崎市総合文化センター 尼崎市	近松の世界を現代に甦らせようと、毎年9月から翌年3月まで近松をテーマにした各種の催しをトータルでPRする。近松を顕彰し、尼崎市の文化のシンボルとして近松文化の創造を図り、市内外へ向けた近松の情報発信都市を目指すことを目的とした取組。「大近松祭」もその一環として取り組まれている。
4	福井県	鯖江市	まちづくり	近松の里 たちまち	たちまち近松まつり実行委員会 鯖江人形浄瑠璃「近松座」など	近松門左衛門が幼少期を過ごした立町地区において、近松門左衛門の顕彰と近松の里「たちまち」を広くアピールするために、「たちまち近松まつり」など、さまざまな地域文化の掘り起こし事業に取り組んでいる。立町公民館には「近松の里めぐり情報館」が設置され、鯖江人形浄瑠璃「近松座」の活動拠点ともなっている。
5		鯖江市	まちづくり	さばえ近松(ちかもんくん)倶楽部	鯖江市	「近松」を題材にさまざまな目録で楽しく学ぶ「近松講座」、倶楽部の世話方を中心として、小学校や各種団体の集まりなどに出席、「鯖江と近松との関係は?」などについて、広く市民にPRする「出前講座-近松入門講座」、機関紙「ちかもんくんかわらばん」発行などを行っている。
6	兵庫県	西宮市	祭り	百太夫神社祭	西宮神社	人形遣いの祖神、百太夫神を祭る境内末社「百太夫神社(ひやくどうしんじや)」で執り行われる。例年、祭典に引き継ぎ関係の深い淡路島や阿波からえびす舞を伝える団体が参拝し、御祝儀舞、三番舞・えびす舞などの人形廻しを奉納される。
7	京都府	亀岡市	祭り	佐伯灯笼祭	佐伯灯笼四社 (禰田野神社、御霊神社、河阿神社、若宮神社)合同祭典	毎年8月14日に行われる特殊神事。平安時代に朝廷より賜った五基の神燈籠と一基の台燈籠により、五穀の実生苗を禰田野神社の神様の御産代として神輿に運び五穀豊穡を祈願する。五基の神燈籠と御輿・大太鼓による勇壮な神事や、「台灯ろう」と呼ばれる間ロー間の宮殿形式の舞台の上で菅丈30センチメートルほどの人形を操る歌舞伎顔の人形浄瑠璃の奉納など全国にも稀な祭であり、徳川中期以降丹波の大祭として全国に知られるようになった。国の重要無形民俗文化財に指定されている。
9	京都府	京丹波町	イベント	魅せる・人形芝居フェスティバル	文化庁、京都府、京都府教育委員会、京丹波町、京丹波町教育委員会、和知人形浄瑠璃会、第26回国民文化祭京都府実行委員会、第26回国民文化祭京丹波町実行委員会	伝統芸能である「和知人形浄瑠璃」をはじめ、各地から集結する10団体の人形芝居の共演を通して、地域に愛着と誇りをもたらす伝統芸能を大人と子どもが共同して継承していく大切さを伝えることを目的に、第26回国民文化祭の一環として開催。
8	兵庫県	尼崎市	イベント	大近松祭	近松祭協賛事業実行委員会、広濟寺、(財)近松記念館、(財)尼崎市総合文化センター、尼崎市	近松門左衛門の偉業をしのび、11月22日の命日に前に開催される伝統行事。浄瑠璃人形での基前祭や文楽の上演や、下取部小学校浄瑠璃クラブによる浄瑠璃人形公演のほか、近松青頭保存会が舞踊を披露し、地域交流の輪を広げる取組が行われる。また、地元のパフォーマーによるお笑いや漫才が行われる。
10	兵庫県	西宮市	イベント	南あわじ&西宮とれとれ市	西宮中央商店街振興組合、南あわじ市	「人形芝居えびすさき(西宮)」と「人形浄瑠璃(南あわじ)」を通じた淡路と南淡路の地域交流イベント。淡路人形浄瑠璃の披露のほか、漁師料理の振る舞い、地元野菜・物産フェアなどが行われた。
11	その他	その他	イベント	全国人形芝居サミット&フェスティバル	全国各地	日本各地の地域芸能としての人形芝居を伝承・保存するために、全国各地の人形芝居保存会と関係者が集い、交流を深めるイベント。人形芝居などの保存・継承をテーマにした講演会やパネルディスカッションが行われ、人形芝居を中心とした芸能が披露される。

テーマ候補に関する関西各地の取組等(主な地域資源等:歴史)

No.	資源(人物)	府県	市町村	ゆかりの地/催し	概要
1	近松門左衛門	兵庫県	尼崎市	近松の里	JR尼崎駅より北へ約2キロメートルにある広済寺、近松の墓、近松記念館、近松公園周辺を「近松の里」と名づけ、歴史と文化がふれあう魅力あるゾーンとして整備されている。毎年秋に、近松祭や近松あひい市(フリーマーケット)が開催され、多くの人で賑わう。
2			尼崎市	近松記念館	1975年(昭和50)11月22日に地域の人々により「財団法人近松記念館」が設立され開設。平成20年6月にリニューアルオープンした。資料室は、近松の過去帳、愛用の文机、手紙など近松ゆかりの資料約100点を展示。近松の出生から菩提寺である広済寺とのゆかり、尼崎とのかかわりなど、近松が生きた歴史に沿った見やすい展示があり、発表会や展示会など各種催しに利用できるホールもある。
3			尼崎市	近松公園	近松公園は約2ヘクタールに池や、せせらぎなどを配した回遊式の日本庭園で、四季折々の風情が楽しめる。
4			尼崎市	広済寺 (近松門左衛門の墓 /近松部屋)	広済寺では数々の作品を執筆したと伝えられている。近松の墓と、本堂裏に六畳二間、奥座敷四畳半の『近松部屋』と呼ばれる部屋があり、この部屋で幾多の名作を書き続けたとされている。
5			尼崎市	近松祭	命日(11月22日)前後の休日に、広済寺・近松記念館などで開催されている。墓前祭や奉納行事が行われる。
6	福井県	大阪府 中央区	近松門左衛門の墓碑	昭和42年(1967)の谷町筋拡張工事の際、墓のあった法妙寺が大東市に移転したが、境内にあった近松門左衛門の墓だけは国の史跡指定を受けており、現地保存が義務づけられていたため、当地に残された。	
7		鯖江市	鯖江市まなべの館内 (近松の部屋、図書コーナー)	近松門左衛門と鯖江市との関係を中心に、史料や映像を交え、近松の業績を紹介するコーナーが設けられている。近松の本家にあたる杉森家より寄託された杉森家系譜や、浄瑠璃人形の展示等の他に、近松の鯖江時代を創作した「近松ものがたり」も上映されている。近松関連の書籍を集めたコーナーもある。	
			近松門左衛門記念碑庭園	浄瑠璃に欠くことのできない三味線をかたどった庭園で、正面奥に近松の辞世文を記した碑が建立されている。脇碑では、近松の父・吉江藩士杉森信義と近松が越前を離れるまでを解説している。また、作家・水上勉氏揮毫による「近松門左衛門先生由縁之地」の碑もある。	
8	竹本義太夫	大阪府 天王寺区	超願寺 (竹本義太夫の墓)	竹本義太夫の墓がある超願寺の山門。当山の創立は古く、614年(推古天皇22年)聖徳太子の草創と伝えられ、太子が蘇我馬子の末子慧観を住まわしめたといわれる。	
9		大阪府 天王寺区	竹本義太夫生誕碑	天王寺区茶臼山町の堀越神社から南に約100Mの路上にある『竹本義太夫生誕碑』。1950年(昭和25年)に「財団法人人形浄瑠璃因協会」によって建立された。	
10		中央区	竹本座跡	竹本義太夫が貞享(じょうきょう)元年(1684)人形浄瑠璃の小屋として開いたもの。当時は竹本座・中の芝居・角の芝居・角丸の芝居・豊竹座・竹田の芝居と華やかな舞台を競い合った。その後は歌舞伎の小屋となり、大西の芝居・筑後(ちくご)の芝居・戎座・浪花座と続いたが、現在は閉館され、「竹本座跡」の碑が残っている。	
11	豊竹若太夫	大阪府 中央区	本経寺 (豊竹若太夫の墓)	山門の横に「豊竹若太夫墓所」石碑、境内にある墓は合同墓で、9名の法名が刻まれている。	
12			豊竹座跡	豊竹若太夫(竹本義太夫の弟子)が旗揚げした人形浄瑠璃の芝居小屋。明和2年(1765)、若太夫が亡くなったために閉座して、「若太夫の芝居」という歌舞伎小屋に転じるが、明治9年(1876)に焼失。「阪恵座」と名を変え開場したものの、明治10年(1877)に、またしても焼失した。	
13	植村文楽軒	大阪府 中央区	難波神社	植村文楽軒が人形浄瑠璃の興行を行った福荷社があり、文楽発祥の地と云われる。境内東門外に「福荷文楽の跡」という碑がある。	
14			御霊神社	境内には明治十七年から大正十五年まで 人形浄瑠璃御霊文楽座 があり文楽200年の歴史のうちでも、もっとも華やかな時代をつくったと言われる。「御霊文楽座跡」の石柱、「文楽座の跡」のブロンズ製床本型の記念碑がある。	
15	紀海音	大阪府 東大阪市	園林山宝樹寺 (紀海音の墓)	上本町にあった宝樹寺に葬られたが、同寺は現在は墓と共に東大阪市に移転している。合同墓で、正面には海音の法名「清潮院海音日法」と妻の法名「月慶院妙隆日幸」と「享保十五庚戌九月三日」(1730年)の日付があり、海音の生前に建てられた墓らしい。墓は東大阪市の史跡・文化財に指定されている。	
16	竹田出雲	大阪府 天王寺区	青蓮寺 (竹田出雲の墓)	竹田出雲と竹田一族の墓があり、竹田出雲の墓は大阪市の史跡に指定されている。	